

Le Souvenir Français 協会について

Le Souvenir Français 協会は次の3つの使命をもっている。

(1) フランスのために死んだ彼ら、彼女ら、および人類の自由と権利を守るために、陰陽にわたる崇高な行為によってフランスの名誉を高らしめた彼ら、彼女らの記憶を保持し続けること

(2) フランス国内外にある有名無名の彼ら、彼女らの墓地、および彼ら、彼女らの名誉を讃えて建てられた記念碑の維持管理

(3) 次世代の子供たちに、これらの死を記憶することを通して、自由の理想と祖国愛を育み、記憶することの必要性を伝えていくこと

同協会の標語は「我らに記憶を、彼らに不滅を」A nous le Souvenir, A eux l'Immortalité である。

以上の記述から Le Souvenir Français 協会の目ざすところは明らかであろうが、退役軍人の会とは明確に区別され、フランス人、外国人を問わず、またあらゆる年齢層の人に開かれており、政治的、宗教的、思想的中立性を厳格に保持している。資金は会員の会費（賛助会員 15 ユーロ、正会員 8 ユーロ、学生生徒会員 2 ユーロ、団体会員 15 ユーロ）やバッジなどのグッズの販売によってまかなわれている。

1872 年に占領下のアルザス・ロレーヌ地方で誕生し、1887 年に Neuilly-sur-Seine において、Xavier NIESSEN によって創設され、1901 年 7 月 1 日発布の法律によって規定され、1906 年 2 月 1 日に公益法人と認定された。共和国大統領後援の団体であり、名誉役員には首相、上院議長、下院議長などが名を連ねている。またアカデミー・フランセーズおよび人文社会科学アカデミーからも賞を授与されている。

広島のとろ山フランス人墓地の中央に立っている記念碑は、当時の在日フランス人と Le Souvenir Français 協会とが協力して建立したものである。墓そのもの建設には、当時の広島市民もカンパしたと伝えられている。